令和８年度　施策評価シート《佐賀市未来共創プラン》

政　　策	04 経済・観光	「ひと」と「しごと」に選ばれ、稼ぐまち

佐賀市の経済・観光がいつまでも発展するためには、多様な「ひと」や「企業」に選ばれ、多くのひとを引き付けるまちである必要があります。
佐賀市を選ぶひとを増やすために、一人ひとりの多様な価値観や生き方、可能性に光を当てて、「暮らしたい（働きたい）」、「訪れたい」、「応援したい」と思われるまちづくりを進めます。

2040年に目指す市民等の姿《総合計画》

1 企業等は、事業活動を通じて、地域課題の解決や従業員の豊かな生活を実現しながら持続的に成長を続けている。
2 市民は、日常にある地域の魅力を内外に伝え、市を訪れた人は多様な観光体験を通じて、佐賀のファンになっている。
3 市民は、魅力ある都市機能が集まり、にぎわうまちなかで、平日・休日の両方を快適に過ごしている。

重点ポイント

・まちの稼ぐ力を高め、域際収支の改善を図ること
・働き方の選択肢を増やし、多様な人材を増やすこと
・佐賀らしい観光を磨き上げ、提供すること
・暮らす人・働く人も、イベントなどで訪れる人も、みんなが楽しく過ごせるまちなかであること

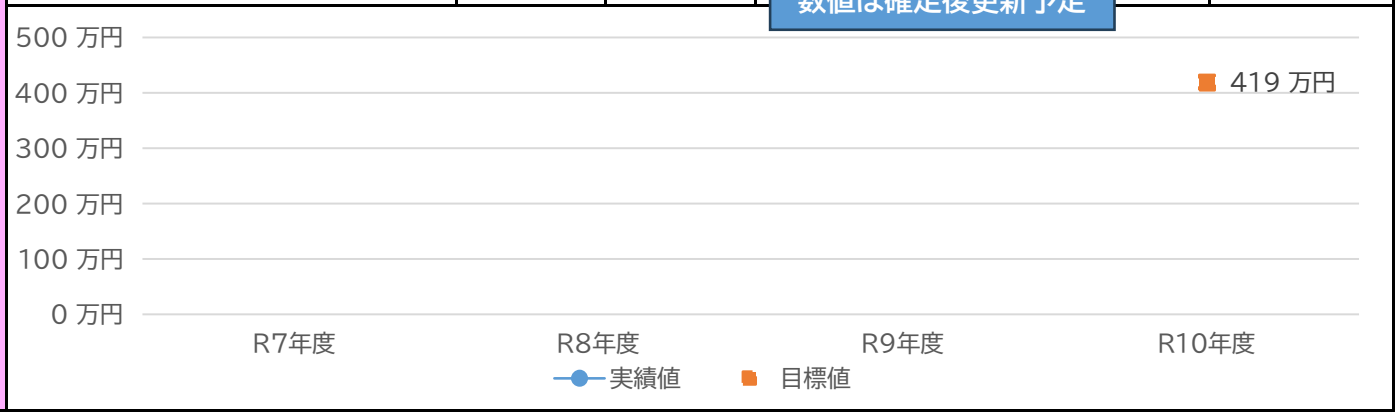
目指す姿や重点ポイントと現状のギャップ

・人手不足や利益率向上に関する悩みや課題を抱えた企業が多く、人材と仕事のミスマッチ（人手不足、若者流出）が生じている。
・経営を取り巻く環境の変化に対応できていない。
・客層のターゲットが絞れておらず、モノやコトの魅力を伝えきれていない。
・まちなかに低未利用地が多く機能的な配置になっていないため、魅力が発揮できていない。

政策のゴール

市民１人当たりＧＤＰ	基準値 Ｒ５年度	目標値 Ｒ１０年度	実績値 Ｒ７年度	Ｒ８年度	Ｒ９年度	Ｒ１０年度
	392 万円	419 万円				

数値は確定後更新予定



施　　策	04-3 まちなかの魅力向上	施策統括責任課	中心市街地振興室
関係課	中心市街地振興室		

重点的に取り組む施策の方向性

・魅力ある店舗や施設の立地を促進したまちづくりにより都市機能の誘導を図ります。
・佐賀城公園から佐賀駅を経由しＳＡＧＡサンライズパークへ至る南北軸の魅力を高めるため、中央大通り沿線の取組を強化します。

《総合評価》総括と今後の主な取組

●施策の成果指標である「まちなか来街者数（1時間あたり）」は770人となり、基準値632人から138人増加し、令和10年度の目標値880人に向けて順調に推移している。一方、「中央大通り沿線の間口率（店舗・事務所等）」は47.5%となり、基準値50.9%及び目標値53.0%を下回っている。
重点的に取り組む事業では、SAGAアリーナの集客効果を街なかへ波及させる街なかリーディング促進事業により、アリーナイベント開催時の来街者数の増加やクーポンを活用した街なかの回遊促進が図られるなど、施策の推進に一定の成果が見られることから、今後も継続して取り組む必要がある。中央大通り再生計画推進事業では、民間投資による魅力あるまちなかづくりへの効果が期待される一方、建築コストの高騰等、民間投資を取り巻く環境が変化しているため、支援制度のあり方を検討する必要がある。中央大通り賑わい拠点整備事業では、令和7年度に基本計画を策定し、施設整備の基本的な考え方や方向性を整理した一方、施設規模や整備費、管理運営手法等は、今後の設計やサウンディング調査を通じて具体化する必要がある。デジタル技術を活用した街なかブランディング事業では、街なか分析レポートやサイネージ広告の活用に課題がある。
以上を踏まえ、今後の主な取組は次のとおりとする。
・街なかリーディング促進事業は、これまでの取組による成果を踏まえ、長期イベントを軸に、アリーナ来場者等の誘導や街なかの回遊、店舗利用につながる取組を継続・強化する。
・中央大通り再生計画推進事業は、社会経済情勢の変化を踏まえて支援制度の実効性を検証し、必要に応じて見直すとともに、民間事業者への事業化支援を継続し、建替えや新規出店を促進する。
・中央大通り賑わい拠点整備事業は、基本設計・実施設計やサウンディング調査を進め、運営体制の構築を含めた事業の具体化を図り、滞在・回遊拠点の整備を着実に推進する。
・デジタル技術を活用した街なかブランディング事業は、事業者ニーズや費用対効果を踏まえて取組内容を工夫するとともに、令和8年度に実効性を検証した上で、必要に応じて事業内容や実施手法の見直し、事業規模の適正化等を検討する。

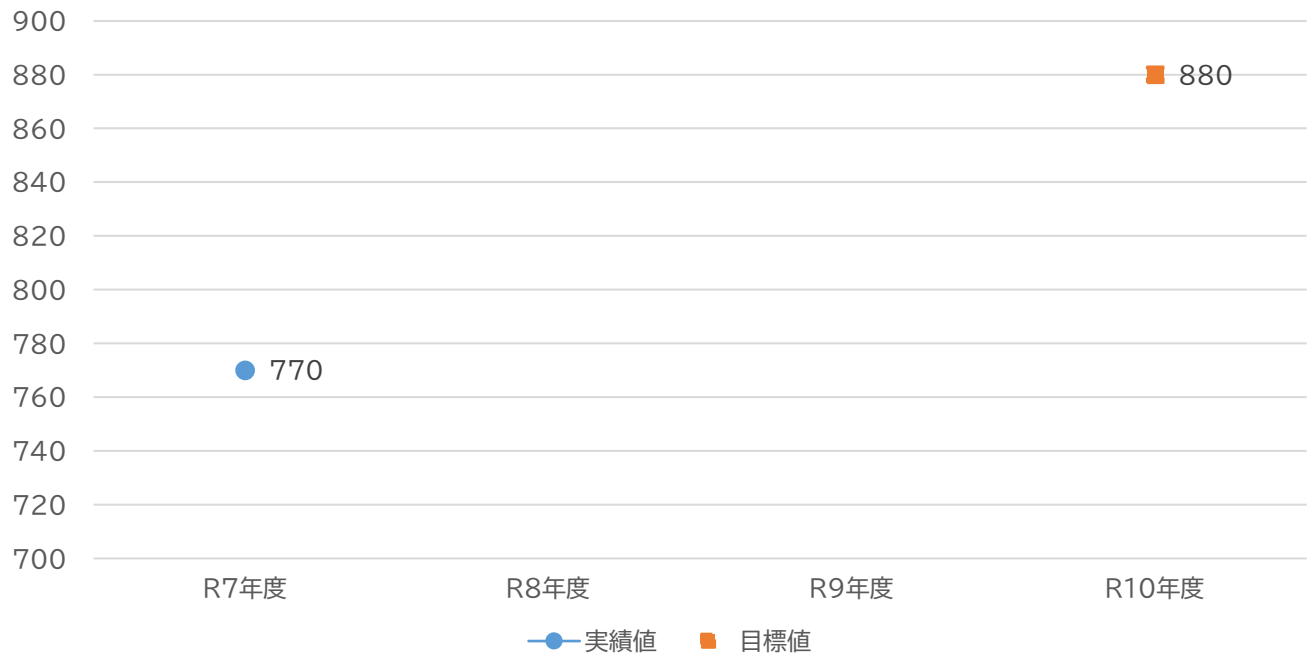
年度別　主な取組内容

Ｒ７年度	Ｒ８年度	Ｒ９年度	Ｒ１０年度
●中央大通り再生計画推進事業　8,600千円（アドバイザリー支援1件、プランニング支援3件、賑わい創出イベント7回・参加者1,880人） ●中央大通り賑わい拠点整備事業　46,807千円（事業用地2筆取得、中央大通り賑わい拠点整備基本計画策定） ●デジタル技術を活用した街なかブランディング事業　9,267千円（街なか分析レポート6回発行、データサイエンス講座3回開催、サイネージ広告8件） ●イベント来訪者街なか誘導事業　25,479千円（指定駐車場無料デー44回・利用者5,845人、回遊型イベント3回・参加者約8,987人）			

成果指標

指標①

まちなか来街者数（１時間あたり）	基準値 Ｒ５年度	目標値 Ｒ１０年度	実績値			
			Ｒ７年度	Ｒ８年度	Ｒ９年度	Ｒ１０年度
	632	880	770			



分析　「まちなか来街者数（１時間あたり）」は770人となり、基準値632人から138人増加し、令和10年度の目標値880人に向けて順調に推移している。

指標②

中央大通り沿線の間口率（店舗・事務所等）	基準値 Ｒ５年度	目標値 Ｒ１０年度	実績値			
			Ｒ７年度	Ｒ８年度	Ｒ９年度	Ｒ１０年度
	50.9%	53.0%	47.5%			

分析　今後新たな事業者が入居するために行う改修・改装のため、一時的に店舗・事務所等の割合が低くなっている。今後の工事着工に伴い数値改善が予測される。

重点的に取り組む事業　①

老朽化したビルの建て替え促進

成果

【中央大通りにおける魅力ある土地利用リーディング事業】
・中央大通り土地利用アドバイザリー支援事業（委託事業）
　中央大通り沿線の物件所有者を対象に、ヒアリング等を通じた土地活用の提案を行うことで、まちなかの魅力向上に寄与する土地利用の検討を促進した。【支援件数：1件、委託料：1,485,000円】
・中央大通り土地利用プランニング支援事業（補助事業）
　中央大通り沿線における民間建築物の整備に向けた基本計画の企画・立案を支援することで、まちなかの魅力向上に寄与する土地利用の具体化を促進した。【補助件数：3件、補助金額：3,915,000円】

問題点とその要因

【中央大通りにおける魅力ある土地利用リーディング事業】
成果指標である「中央大通り沿線の間口率（店舗・事務所等）」の実績値は47.5%となり、目標値（50.2%）を2.7ポイント下回る結果となった。主な要因としては、次の2点が考えられる。
・建築計画策定から建築物の竣工までには一定の期間を要するため、間口率の改善に反映するまでに時間を要する。
・近年の建築コスト高（建築資材・労務費等）が民間投資意欲を阻害している。

今後の取組方針

【中央大通りにおける魅力ある土地利用リーディング事業】
近年の建築コスト高などの社会経済情勢の変化を踏まえ、既存の支援制度について、民間事業者の投資インセンティブとして十分に機能しているかを適宜検証し、その検証結果に基づき、必要に応じて補助上限額や補助算定方法等の制度内容を見直す。また、制度の周知に加え、民間投資の動向や建築計画の進捗を注視するとともに、事業化に向けた支援を継続的に行うことで、建替えや新規出店を促進し、「中央大通り沿線の間口率（店舗・事務所等）」の向上を図る。

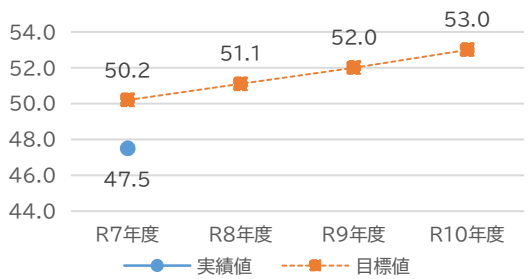
主な重点取組事業

1

事業名	中央大通り再生計画推進事業			
担当課	中心市街地振興室	事業期間	平成　27　年度　～　令和　　年度	
事業概要・目的	令和３年度に策定した中央大通り沿線の将来像や土地利用方針の実現に向けて、民間投資の各フェーズに対応できる「佐賀モデルのパッケージ型・民間投資喚起策」を運用するとともに、中央大通りにおける民間主体のイベント等の開催支援を行い、中心市街地の活性化を図る。			
該当年度取組実績	◎中央大通り土地利用アドバイザリー支援事業 【支援実績：1件】 ◎中央大通り土地利用プランニング支援事業 【補助実績：3件】 ◎中央大通り賑わい創出活動支援事業 【開催イベント数：7件、イベント参加者数：1,880人】			

成果

指標	中央大通り沿線の間口率（店舗・事務所等）			単位	%
年度	Ｒ７年度	Ｒ８年度	Ｒ９年度	Ｒ１０年度	
目標値	50.2	51.1	52.0	53.0	
実績値	47.5				
達成状況	達成できていない				



決算額

年度	Ｒ７年度	Ｒ８年度	Ｒ９年度	Ｒ１０年度
総事業費	8,600千円			
うち市費	6,850千円			

（※職員人件費は含まない）　　（千円）

重点的に取り組む事業　②

日常的に人が集まる、滞在・回遊拠点の創出

成果

【中央大通り賑わい拠点整備事業】
中央大通り賑わい拠点整備事業は、TOJIN茶屋跡地及び隣接の県・民有地に市民や来街者等の交流・活動の拠点となる施設を整備する事業である。
中央大通り賑わい拠点の整備に向けて、令和７年度に事業用地２筆（唐人二丁目１４１番、１５８番）を取得した。
また、これまでの検討経緯を踏まえ、拠点施設の具体的な整備方針を明らかにするとともに、魅力的な空間を実現するための施設計画を示すために、令和７年度に佐賀市中央大通り賑わい拠点整備基本計画を策定した。

問題点とその要因

【中央大通り賑わい拠点整備事業】
令和７年度に策定した基本計画は、施設整備の基本的な考え方や方向性を示すものであるため、施設の具体的な規模、整備費、管理運営手法、利用ルール等は定めていない。これらについては、今後の設計や民間事業者等へのサウンディングを通じて具体化する必要がある。
また、建築費等の上昇が見込まれる中、必要な機能と事業費のバランスを確保することが今後の課題である。

今後の取組方針

【中央大通り賑わい拠点整備事業】
基本設計・実施設計及びサウンディング調査を進め、利用者ニーズ、施設の使われ方、運営主体、維持管理費等を踏まえて施設内容を具体化する。あわせて、各年度の工程、事業費及び運営開始までに決定すべき事項を整理し、工程ごとの進捗管理を行う。

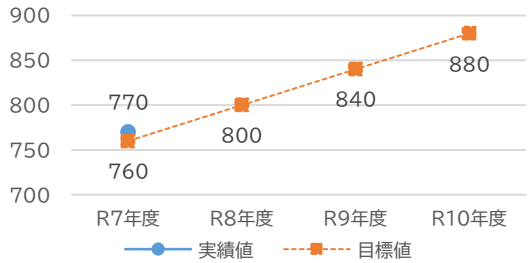
主な重点取組事業

1

事業名	中央大通り賑わい拠点（旧TOJIN茶屋跡地）整備事業			
担当課	中心市街地振興室	事業期間	令和　7　年度　～　令和　11　年度	
事業概要・目的	佐賀駅南口から佐賀中央郵便局までの中央大通りは中心市街地のメイン道路であり、「佐賀の次世代の成長とともにあるシンボルロード」をテーマに、こどもや子育て世帯をターゲットとするとともに、こどもだけでなく大人になっても滞在でき、こどもだけでなく家族や多世代とともに滞在できる空間の創出を進めている。このうち中心部に位置するTOJIN茶屋跡地について、休憩や多様なイベント・活動に利用できる施設を整備することで中心市街地における回遊性を高めるとともに、通りの活性化を図る。			
該当年度取組実績	・事業用地取得（唐人二丁目141番、158番） ・佐賀市中央大通り賑わい拠点整備基本計画策定			

成果

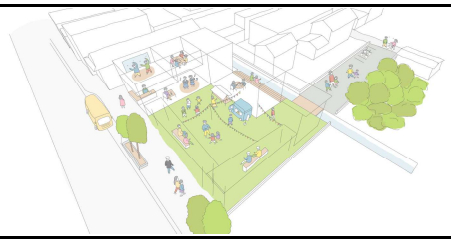
指標	まちなか来街者数（１時間あたり）			単位	人
年度	Ｒ７年度	Ｒ８年度	Ｒ９年度	Ｒ１０年度	
目標値	760	800	840	880	
実績値	770				
達成状況	達成している				



決算額

年度	Ｒ７年度	Ｒ８年度	Ｒ９年度	Ｒ１０年度
総事業費	46,807千円			
うち市費	9,157千円			

（※職員人件費は含まない）　　（千円）



重点的に取り組む事業　③

デジタル技術を活用したまちなかの魅力向上

成果

【デジタル技術を活用した街なかブランディング事業】
・市民や来街者に対して、デジタルサイネージを活用した市政情報やイベント情報の発信等を実施した。
・R7年度は、街なかの事業者に対して、街なか分析レポートを計6回発行し、ホームページ上で公開し、約610回の閲覧があった。
・市民や事業者等を対象に「街なかデータサイエンス講座」を計3回実施し、対面形式では計32人、アーカイブ動画配信では、計177回の閲覧があった。
・県内外の個人や法人を対象にサイネージを活用した広告事業を展開し、R7年度は計8件・223千円の収益（市歳入）を得た。

問題点とその要因

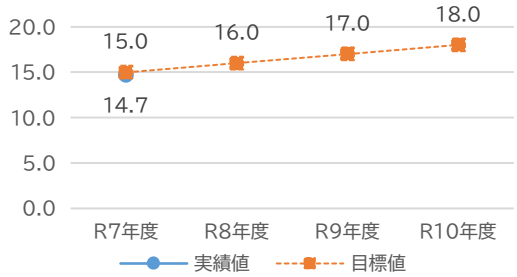
【デジタル技術を活用した街なかブランディング事業】
・街なか分析レポートは、来街者の属性やニーズ等の様々なデータを活用し、街なかの事業者に対して、魅力ある事業経営等に役立ててもらう目的で発行している。R7年度は、計6回発行したうち、前半3回（第1回～3回）の平均閲覧回数が150回に対して、後半3回（第4回～6回）は平均54回と64.0%低下している。この要因として、当レポート配信が「情報提供」にとどまり、各事業者が自身の事業経営（販売促進や業務改善等）に落とし込むに至っていないことが考えられる。
・サイネージ広告事業の収益（223千円）だけでは、多機能型情報メディア等の運用・保守費（3,696千円）の約6%しか賄えず、継続運用に必要な財源を確保できていない状況。この要因として、広告媒体としての認知不足や、1件当たりの掲載料がR6年度から約20%低下（R6：約34,867円/件→R7：約27,876円/件）しており、1件あたりの単価が減ったことが考えられる。また、広告事業の開始以降、同一広告主からの掲載が各年度平均で約47.2%を占め、特定の広告主への依存度が高いことも要因のひとつである。

今後の取組方針

【デジタル技術を活用した街なかブランディング事業】
・街なか分析レポートの発行については、利用ニーズや費用対効果の観点から、発行回数を減らし（6回→4回）、事業者にとって集客効果に寄与するものとなるよう、テーマ設定等を工夫する。
・サイネージ広告事業においては、特定の広告主への依存を見直し、街なか事業者、イベント主催者や県内外企業等といった広告主の裾野を広げる。
・多機能型情報メディアの運用・保守費等については、R8年度の広告事業との収支バランスの状況に応じて、機能の縮小など、コストを削減する方向で検討する。

主な重点取組事業

1	事業名	デジタル技術を活用した街なかブランディング事業				
	担当課	中心市街地振興室	事業期間	令和　2　年度　～　令和　　年度		
	事業概要・目的	多機能型情報メディア（デジタルサイネージ、人流・環境センサー等）を運用し、情報発信とデータ取得・分析を一体的に行う取組である。デジタル技術の導入ありきではなく、市民・事業者の課題やニーズをもとに共創を進め、来街者が必要な情報を得て街を楽しみ、市民や事業者等がデータ利活用を通じて、集客や業務改善等に取り組めるようデジタル人材の育成やデジタルリテラシーの涵養に努める。また、サイネージ広告事業による収益化に努め、自走型のスマート街なかにつなげる。				
	該当年度取組実績	・事業者向けに「街なか分析レポート」を発行 （発行回数：6回／配信事業所数：125か所） ・街なかデータサイエンス講座の開催 （計3回、参加者数 32人、アーカイブ動画視聴数 177回） ・デジタルサイネージによる広告掲載 （計8件、歳入 223千円）				
	成果 指標	まちなかの魅力向上に満足している市民の割合	単位	%		
	成果 年度	R７年度	R８年度	R９年度	R１０年度	
	成果 目標値	15.0	16.0	17.0	18.0	
	成果 実績値	14.7				
	成果 達成状況	達成できていない				
	決算額 年度	R７年度	R８年度	R９年度	R１０年度	
	決算額 総事業費	9,267千円				
	決算額 うち市費	8,544千円				
	（※職員人件費は含まない）　（千円）					



重点的に取り組む事業　④

SAGAアリーナ来場者のまちなかへの誘導

成果

【街なかリーディング促進事業】
・サイネージ活用事業：佐賀駅周辺等（佐賀駅構内、佐賀駅前交流広場、ゆめタウン佐賀）のデジタルサイネージを活用し、街なかイベントや回遊促進施策等に関するプロモーションを実施した。（配信素材：7本、新規：5本）
・街なか指定駐車場無料デー事業：SAGAアリーナでのイベントに合わせ、アリーナ来訪者の駐車料金を無料化するとともに、街なか店舗で利用可能な電子クーポンを配布することで、街なかでの消費促進を図った。（実施回数：44回、利用台数：3,319台、利用者数：5,845人、クーポン実績｜発行数：4,118枚／利用数：3,391枚／利用率：82.3%）
・エリア回遊型イベント開催等事業：アリーナ来訪者等を中央大通りや街なかへ誘導するため、短期・長期型のイベントを実施した。（参加者数｜短期イベント2回：計4,987人、長期イベント1回：約4,000人）

問題点とその要因

【街なかリーディング促進事業】
・街なか指定駐車場無料デー事業：R7年度における利用台数（R6→R7｜約69%増）及び利用者数（R6→R7｜約52%増）が増加した一方、1台当たりの利用人数（以下「利用者数／台」という。）がR6年度の「約2.0人／台」から、R7年度は約1.8人／台となり、前年度比で約10%減。この要因として、実施回数の多いプロスポーツイベントの「利用者数／台」が約1.7人／台となったことに加え、ファミリー向けエンタメイベントの開催数が減少したことが考えられる。
・エリア回遊型イベント開催等事業：短期イベントにおいて、「サガマチカレーさんぽ」の参加者数が前年度比で約9.6%減（R6：1,500人｜天候：晴れ、R7：1,356人｜天候：雨）。この要因として、屋外のイベントは当日の天候に左右されやすいことが考えられる。

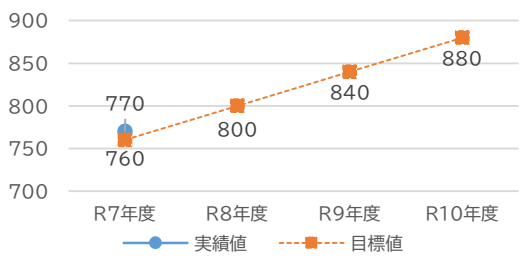
今後の取組方針

【街なかリーディング促進事業】
エリア回遊型イベント等開催事業：長期イベントを軸に集客効果が高い企画や街なか店舗の利用に繋がる企画等に重点を置き、総参加者数を伸ばす取組を検討する。

主な重点取組事業

1	事業名	街なかリーディング促進事業				
	担当課	中心市街地振興室	事業期間	令和　5　年度　～　令和　　年度		
	事業概要・目的	【概要】 SAGAアリーナ来訪者を、佐賀駅周辺から中央大通りや街なかへ誘導し、回遊や買い物、飲食などの消費につなげるための事業。 【目的】 アリーナ来訪者がプロスポーツ観戦やエンタメイベントの参加だけで終わるのではなく、街なかに立ち寄り、店舗や観光施設を利用する流れをつくることで、中心市街地のにぎわいと地域経済の活性化を図る。また、アリーナで生まれた人の流れが日常的に街なかへ広がり、市民や事業者がその効果を実感できる状態を目指す。				
	該当年度取組実績	◎デジタルサイネージ活用事業 配信素材：7本（佐賀駅構内、佐賀駅前交流広場、ゆめタウン佐賀敷地内） ◎街なか指定駐車場無料デー事業 実施回数：44回、利用台数：3,319台、利用者数：5,845人 クーポン実績｜発行数：4,118枚／利用数：3,391枚／利用率：82.3% ◎エリア回遊型イベント開催等事業 イベント実績：短期イベント2回（来場者数｜4,987人）、長期イベント1回（来場者数｜約4,000人）				

成果					
指標	まちなか来街者数（１時間あたり）			単位	人
年度	Ｒ７年度	Ｒ８年度	Ｒ９年度	Ｒ１０年度	
目標値	760	800	840	880	
実績値	770				
達成状況	達成している				



決算額					
年度		Ｒ７年度	Ｒ８年度	Ｒ９年度	Ｒ１０年度
総事業費		25,479千円			
	うち市費	19,453千円			
（※職員人件費は含まない）　（千円）					